

沖縄県嘉手納基地視察について

- 1 視察日程 平成17年11月28日～30日 3日間
- 2 視察先 嘉手納町、沖縄県庁、那覇防衛施設局
- 3 嘉手納町の視察内容

(1) 基地の概要

- ・ 嘉手納飛行場と民家との距離は駐機場までが50m、滑走路までが400mであり、米軍が基地を管理・運用している。
- ・ 常駐機はF-15の48機を含め100～120機と言われている。海外や国内他基地からの飛来も多く実数は不明である。(千歳基地のF-15は40数機と言われている)
- ・ 日常的に行われている通常の飛行訓練の他、基地内において地上爆発模擬装置(GBS)を伴う年4回程度の即応訓練、年11回程度の滑走路修復訓練等が行われている。
- ・ 国内外の他基地、自衛隊や外国との共同訓練も頻繁に行われており、年間の離発着回数は県の発表では約7万回と言われている。(千歳飛行場は2万2～3千回。他に民航10万回)

(2) 地域への影響

- ・ 住民は、騒音はもとより、エンジンテストによる異臭や熱風、洗機水の飛散等の被害を受けている。
- ・ 嘉手納町の70dB以上の航空機騒音測定回数は年間4万回であり、月平均で3,000回以上となっている。
深夜早朝の騒音発生件数は月平均で200回前後を記録している。(ほぼ毎日発生。エンジン調整音含む)

(3) 協定

- ・ 日米合同委員会で騒音防止協定を結んでおり、夜間(22時～翌6時)、日曜・祝祭日の飛行、飛行コースや高度などについて制限されているが、“ただし書き事項”を理由に順守されていない場合がある。

(4) 事故・苦情対応

- ・ 事故等の対応については、問い合わせには応じてはくれず、連絡があるまで（公表されるまで）かなりの時間を要する。（今年4月1日～11月17日で緊急着陸は46回）
- ・ 住民からの苦情は“基地苦情110番”を24時間受付けており、ほぼ毎日ある。（夜間は留守電）

4 騒音の状況

平成16年度常時監視局測定結果の比較

A：ほぼ航路直下地点

B：航路から離れた地点

	測定局	WECPNL	1日当りの騒音発生回数	最大ピークレベル(dB)	月別平均ピークレベル(dB)	滑走路との位置関係
A	うるま市 美原局	80.4	68	109	85.4 ~ 87.6	滑走路端から 7km
	苫小牧市 植苗公園局	67	33	98	76 ~ 78 (年間78)	滑走路端から 8km
B	うるま市 昆布局	76.3	42.9	113.5	80.4 ~ 88.2	滑走路端から 直線で6.8km、 航路から950m
	苫小牧市 丹治沼局	72	76	98(民航) 96(自衛隊)	76 ~ 80 (年間77)	滑走路端から 直線で6.2km、 航路から1.5km

苫小牧丹治沼局：民航機のほぼ航路直下で滑走路端から4.7km

深夜・早朝（22時～翌7時）の騒音発生回数

	測定局	騒音発生回数（月平均）
A	うるま市 美原局	135.5
	苫小牧市 植苗公園局	20
B	うるま市 昆布局	77
	苫小牧市 丹治沼局	68

苫小牧市の2局とも民航機。

測定局数及び環境基準適合状況

飛行場	測定局数	環境基準適合局数
嘉手納飛行場	16 (県8、市町8)	6
千歳飛行場 (苫小牧側)	15 (道9、市5)	15